

2013 年度事業計画

2013 年 3 月 25 日

学校法人 金城学院

目 次

はじめに	1
《資料》金城学院中期計画（2009年度～2014年度）	
I 2013年度事業計画の策定にあたって	3
II 金城学院大学の事業計画	4
1 使命・目的	
2 教育支援	
3 受験生の獲得	
4 学生生活	
5 キャリア支援	
6 教育・研究環境	
7 国際交流	
8 社会貢献・地域奉仕	
9 管理運営	
10 施設・設備の充実・整備	
《資料》金城学院大学の将来構想概要	
III 金城学院高等学校及び金城学院中学校の事業計画	8
1 キリスト教教育の推進	
2 教育力の向上	
3 生徒の受け入れ	
4 施設・設備の充実・整備	
5 国際理解教育の充実	
6 学習・進路・生活指導の充実	
7 生徒支援体制の充実	
8 健全経営の維持	
9 組織力の向上	
《資料》金城学院高等学校及び金城学院中学校の将来構想概要	
IV 金城学院幼稚園の事業計画	13
1 保育活動の充実	
2 保護者との連携	
3 新入園児の受け入れ	
4 0～3歳児の親子教室開催	
5 大学、関係団体及び地域との連携	
6 園庭整備と自然の有効利用	
《資料》金城学院幼稚園の将来構想概要	
V 法人部門の事業計画	15
1 財務基盤の強化	
2 人材の育成	
3 各学校・園の規模適正化の研究	
4 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進	
VI 予算概要	16
1 予算編成方針	
2 主な事業別予算	

はじめに

創立者であるアニー・E・ランドルフ宣教師とその協力者であったロバート・E・マカルピン宣教師をはじめ、福音主義キリスト教に基づく教育に心血を注ぎ、戦前戦後の苦難の時代を乗り越え、現在に至る金城学院の発展を築いてきた先人たちの労苦を見つめるとき、あらためて生徒・学生に対する「思い」や「愛情」が結果として金城学院を大きく育てたことを知る。金城学院創立 120 周年を迎えた 2009 年度に、金城学院として今後 6 年間の中期計画（後掲参照）を発表し、原点に立ち返るとともに、その深化として「金城学院建学の精神のリバイバル」を基本方針とした。それは、建学の精神に込められた金城学院の社会的責任を果たすことが、ブランド資産を向上させ、優秀な人材（学生・生徒・園児・教職員）の確保と教育力の強化にもつながる。具体的にいえば「キリスト教主義による人格教育の強化」「金城学院の建学の精神を生かした女子教育のさらなる推進」「より具体性を伴った国際理解の充実」を 3 本柱と考え、その実現のために、中期計画及び事業計画に基づき P D C A を徹底し、健全財政の維持、有能な教職員の確保と育成に努め、地域社会との共生に配慮しつつ、教育施設設備の整備を行うことである。

今日は厳しい時代ではあるが、金城学院は長き伝統をもっており、その伝統とは絶えざる改革の連続でなければならないといえる。このために、金城学院全体の組織・機構について客観的な評価を実施して、法人運営を将来にわたって強固なものにするとともに、時に応じて金城学院の枠組みを超えて、他組織、他団体等との提携・共同事業等も調査研究し、今後の予測しがたい社会の変化に対応するように備えなければならない。

2011 年度は、2009 年度に策定した中期計画の前半を終える年度であることから、中期計画の前半を振り返って評価を行った。その結果、中期計画の後半に向けた課題も見えてきた。こうしたことから、2013 年度は中期計画後半の中間の年度として、前年度に引き続き次のことを事業方針に掲げる。

（1）教育力の向上

各校において自己評価を推進するとともに、授業評価を教育実践に反映させる枠組みを整備する。また、キリスト教主義教育に基づく広い教養と専門性を兼ね備えることを目的とした女性教育をさらに推進する。

（2）研究の充実

各校の人的資源を有効に活用し、産学官連携の研究活動をはじめ、各校の教育につながる研究活動の推進を図る。

（3）学生、生徒等支援体制の充実

学生、生徒及び園児に対する修学上の支援策を積極的に推し進める。

（4）地域及び社会への貢献

地域及び社会への貢献策を検討し、地域や社会とともに成長する学院づくりを目

指す。

(5) 維持協力会及び寄付者との関係強化

維持協力会及び寄付者の満足度を高め関係を強化する。

(6) 学校法人の組織力・経営力強化

経営主体たる法人の役割と位置づけを明確にし、学校法人の組織力・経営力を強化する。

《資料》金城学院中期計画（2009年度～2014年度）

【通】：通期目標、【前】：前期目標、【後】：後期目標

全人教育の強化 キリスト教主義による	校内礼拝の励行と地域教会との関係強化	礼拝の魅力化 【通】 近隣教会への出席の推奨 【通】 キリスト教関係施設による地域貢献のあり方の調査・研究 【前】
	キリスト教教育の再構築	関係諸団体・組織との連携の強化 【通】 宗教教育の体制整備と陣容の確保 【前】 宗教主事の機能・機構の見直し 【前】
	ボランティア活動の活発化	ボランティア活動の推奨、指導 【通】 ボランティア活動の単位認定の研究 【前】
女性教育の推進 学院の建学の精神を活かした	教育力の向上	教養教育の徹底 【通】 女性専門教育の充実 【通】 教育のグローバル化・英語教育の徹底 【通】 魅力的な学部・学科の編成 【通】 中・高・大連携の推進 【通】 教育評価制度の確立と運用 【前】
	施設・設備の充実・整備	エコ・環境に配慮したキャンパスづくり 【通】 キャンパス美化 【通】 キャンパスの保安体制の確立 【通】 中・高キャンパスの整備 【前】 教育用設備の整備 【前】
たより国際理解の充実を伴った	海外関係校との関係強化	教員の共同研究の促進 【通】 留学生の派遣の促進 【通】 留学生の受入れ態勢の整備と受入れ推進 【前】
	留学生との交流促進	国際交流センターの体制強化 【前】 交流の場づくり 【後】

健全経営の維持	的確な財政検証・予測と資金計画	各校・園の規模適正化の研究 【通】 外部資金・寄付金の導入と活用 【通】 資金の有効活用 【通】 予算精度の向上と弾力的運用 【前】 部門別採算制の実施 【前】
	組織力の向上	組織運営の合理化と責任体制の明確化 【通】 業務管理の効率化 【通】 人事・労務管理の適正化と人材の育成 【前】
	入学・入園者の確保と退学者の防止	広報・宣伝体制の整備 【通】 募集業務の徹底 【通】 在校生相談・指導窓口の充実 【前】
地域社会との共生	環境共生モデル地区の造成	里山と大学キャンパスの共存 【前】 八竜地区の活用 【後】
	キャンパスの地域への開放	ランドルフ記念講堂ほか、施設・設備の利用法の見直し 【前】 見せる施設・利用できる施設の活用 【後】
	人財の派遣・提供	ファッション工房の立上げ・サテライト設置構想の調査・研究 【前】 社会人教育・生涯教育などの諸提携・協力実態の調査・検討 【通】 地域ボランティア活動への参画 【通】

I 2013年度事業計画の策定にあたって

私学を取り巻く社会環境は、少子高齢化の進行、学校間競争の激化などにより大きく変化し、経済状況の回復のにぶさなどもあって、金城学院は、数々の深刻な課題を抱えている。ステークホルダーを含めた社会が求める教育ニーズは更に多様化・高度化し、それに伴って様々な教育制度の改革を推進することは、金城学院にとって急務であるといえる。

大学では、社会の多様なニーズに迅速に対応すべく、2012年度に現代文化学部国際社会学科及び情報文化学科を廃止し国際情報学部国際情報学科を設置するとともに、現代文化学部コミュニティ福祉学科を廃止し人間科学部コミュニティ福祉学科を設置した。さらに、人間科学部芸術・芸術療法学科を廃止し2013年度に文学部音楽芸術学科を新たに設置した。2013年度は、この新たな学部学科構成のもと、大学の将来構想（後掲）に掲げた教育方針に基づき、引き続き教育研究の質をさらに高めるよう教育研究の改善努力をするとともに、質の確保のための学内システムを構築する。

高等学校及び中学校においては、数学、理科、外国語及び情報の授業時間数の増加など新学習指導要領に対応した教育課程を整備するとともに、2012年度中学校入学生から入学定員を360名から320名に変更した。2013年度は、高等学校・中学校の将来構想（後掲）に掲げた教育方針に基づき、「自立・自律・連帯」できる女性の育成を目指した教育を進める。

幼稚園では、子育て支援ならびに入園希望者拡大策として2013年度から「預かり保育」事業を開始することを2012年度に決定した。2013年度は、幼稚園の将来構想（後掲）に掲げた教育方針に基づき、入園希望者にとって入園しやすい環境と制度の充実にさらに努める。

法人部門としては、2011年度に設立した金城学院維持協力会の会員数を増加させ、更に発展させるとともに、2012年度に立案した寄付金募集戦略に基づき、一般寄付金の募集を計画的に実行に移す。あわせて、財務基盤の強化につなげる。

金城学院は、さまざまな社会の変化とその要請に対して迅速かつ適切に対応できるよう、幼児教育から大学教育に至る各学校において教学及び経営の改革を進めることが重要であると考えている。ついては、本学院中期計画及び各学校の将来構想に掲げた各目標項目の達成進捗状況の検証結果に基づき、目標を達成していない項目については目標達成に向けた取り組みを行う。

なお、設置各学校の教育環境を充実させるため、KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）に基づき、第1フェーズとして大学においてはN1棟（仮称）とN2棟（仮称）の2校舎及び新礼拝堂の建築工事を、高等学校においても新校舎1棟の建築工事を進める。竣工は、N1棟が2014年7月、N2棟が2014年3月、新礼拝堂が2014年2月、高等学校新校舎が2014年3月の予定である。

II 金城学院大学 <事業計画>

18歳人口の減少にともない、大学を取り巻く状況は非常に厳しくなっているが、大学では、「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、知的に鍛えた強さと優しさを兼ね備えた品格ある女性の育成を目指す。

具体的には、2013年度も学院の中期計画及び大学の将来構想に基づき、以下の事業を計画し、遂行する。

1 使命・目的

(1) キリスト教主義教育とキリスト教活動の魅力化

建学の精神を学び、理解するために、キリスト教教育の充実を図り、礼拝を中心としたキリスト教活動に学生が積極的に参加できるよう、新礼拝堂及び施設の活用

方法を含め検討する。

(2) 女性教育の理念の再検討

共通教育および専門教育を通じて、強く優しい女性を育成する教育体制を再構築する。

2 学部・学科の改組

総合戦略協議会での協議を重ね、新学科を立ち上げるべく検討を進める。

3 教育支援

(1) 学生の主体的・能動的な学びの促進

ラーニング・マネジメントシステムの積極的利用による授業外学習活動の促進を全学的に進める。

(2) 新共通教育カリキュラムの策定

2013年1月に発足した共通教育委員会を中心に2015年度に向けた新共通教育カリキュラム策定を行う。

(3) CASEC（キャセック）の導入とその効果の検証

2013年度より英語コミュニケーション能力診断テスト CASEC を従来の G-TELP に替えて導入する。円滑な導入をするとともに、結果分析を通してカリキュラム改善に役立てる。

(4) 新 CALL システムの全面的導入による教育効果の検証

2013年度より新 CALL システムを全面的に活用した授業を「英語コミュニケーション B(1)(2)」全クラス及び「英語コミュニケーション D(1)(2)、E(1)(2)」の一部のクラスで開始し、より教育効果が高い授業の実施ができるよう検討を重ねる。

(5) 中高大一貫教育の構想

金城学院が全体として構想、実施しうる一貫教育の理念や具体的内容を検討し、大学が果たすべき役割の明確化をめざす。

(6) ボランティア活動の推奨及び支援

アクティブラーニング科目「ボランティア活動」を通して、子ども・高齢者支援といった活動に、より多くの学生を送り出せるよう努める。

4 受験生の獲得

(1) 入試5か年計画の推進

2013年度入試の結果を踏まえ、入試関連の諸状況に応じて「5か年計画」に必要な修正を加えて計画を進める。

(2) 質の高い学生の受け入れ

アドミッションポリシーに沿った質の高い学生を受け入れるべく、その方策を検

討する。

5 学生生活

(1) 学生のマナー向上

2013年度も引き続きマナー向上に向けた講座を開催するとともに、学生会、サークル協議会とも連携し啓発活動を行う。

(2) 課外活動の活性化

サークル協議会とも連携しサークル活動の学内広報について検討し、サークル活動の活性化を図る。

6 キャリア支援

(1) 具体的な就職活動支援

アドバイザー、キャリア支援、キャリアエールが連携して就職支援が出来るよう方策を検討する。またOGによるキャリア支援の在り方についても検討する。

(2) 低学年生のキャリア支援

低学年生向けのガイダンスおよび基礎力テストを行い、基礎力向上のためのキャリア・アップ講座の受講に結び付けることによる、早期のキャリア支援を実施する。

7 教育・研究環境

(1) 学部ごとのFDへの取り組みの共有化

全学の「FD交流集会」を年に数回開催し、学部独自に行っている活動や事例を報告し、情報交換する機会を設ける。

(2) 学生による授業評価の検証と改善

授業評価の実施結果を組織的に検証することにより、個々の授業のみならず、全学的に教育課程の資質向上につながる活用方法を検討する。

(3) 教員像の検討

大学評価基準に基づき、本学が求める教員像の明確化を目指す。具体的には、本学が教員に求める能力・資質向上を図るための方策の検討を開始する。

8 国際交流

(1) 学生の多様なニーズを満たす国際交流プログラムの見直し

学生のニーズを考慮して、現行留学及び語学研修プログラムの内容、期間、費用を見直すとともに新協定校を開拓する。

(2) 学生と留学生の交流の場づくり

留学生会館や国際交流センターなどで本学学生と留学生の交流の機会を設け、本学学生と留学生が主体的に活動に取り組むことができる方策を検討する。

9 社会貢献・地域奉仕

(1) サテライトの運営

柴にサテライトを設置して4年が経過する。これまでの運営について検証し、今後の運営のあり方を検討する。

(2) ファッション工房の運営

これまで取り組んできた社会貢献事業を検証し、今後の運営のあり方に反映できるように体制を充実させる。

(3) 地域との交流

守山区との連携を推進するとともに、地域の自治会等と話し合いを進めつつ、地域を対象にした社会貢献活動及び教員のフィールドワークの推進に取り組む。

(4) 八竜地区の活用

八竜地区の通路整備は、2010年度に愛知県の推進する「あいち森と緑づくり事業」に採択され通路が整備された。については、本学院のみならず地域にとっても貴重な財産であるこの地区を、学内外に広く周知徹底し、環境教育に資するための活用を促す。

10 管理運営

(1) 危機管理体制の整備

緊急時の対応、連絡体制、不測の事態を未然防止するための方策を検討する。また、KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）に基づいて開始された建築工事エリアにおける安全確保について配慮する。

(2) 実務助手との協働

改組にともなう組織の変更があるが、業務がスムーズに行えるよう実務助手と事務職員が連携して対応する。

(3) 事務職員の人材育成

事務職員としての資質向上策を検討する。

11 施設・設備の充実・整備

KMP21に基づき、N1棟とN2棟及び礼拝堂を建築し、キャンパス・アメニティーの充実を図る。

《資料》金城学院大学の将来構想概要（2009年度～2014年度）

- 1 「キリスト教主義のもと 120 年の伝統を有する女子大学」にふさわしく、学生を知的に鍛え「強く優しい」女性を社会に輩出する。
 - (1) 建学の精神である女子教育の理想を 21 世紀に相応しく具体化する。
 - (2) キリスト教主義大学としての魅力を、全教職員の力で学生に示す。
 - (3) 「強く、優しく。」ということばを大切に、卒業生の伝統を受け継ぎ、ブランド・イメージの構築をはかる。
- 2 本学は教育力で勝負し、他大学からの差別化をはかる。
 - (1) 本学の基本的なスタンスは、「キャリア形成」として教育力を発揮することにある。
 - (2) 学生が学びたくなる/学ばざるをえなくなる教育・学習システムを構築する。
 - (3) 「マナーの金城ルネッサンス」をはかり、洗練されたマナーを持つ学生を育てる。
- 3 既存の学部学科の「改組」により、本学の新しい魅力を打ち出し、新たな受験層を獲得する。
 - (1) わかりやすい学科学部名称、魅力的なカリキュラムと資格課程、職業に結びつくプログラムで専門教育の充実をはかる。
 - (2) 「総合計画」を作成し、その柔軟な運用で大学「改組」を継続的に推進する。
- 4 教育目的に見合った美しい教室と校舎を整備するとともに、キャンパス・アメニティの充実をはかる。
 - (1) 美しい校舎とキャンパスの整備を図る。
 - (2) 教育目的に見合う施設・設備を充実する。
 - (3) キャンパス・アメニティを充実し、「金城生活」の満足度を高める。
- 5 国際交流を進める。
 - (1) 留学生の受け入れと送り出しの中期的な目標の設定をする。
 - (2) 短期の語学研修とは別に、学科の専門を基礎とする海外研修を推進する。
- 6 社会貢献・地域奉仕を進める。
 - (1) 企業からの委託研究、企業との共同研究などが着実に増えつつある。規程等の条件整備を進め、研究面での社会貢献を推進して行く。
 - (2) ファッション工房を支援する。
 - (3) 地域の自治会等と話し合いを進めつつ、地域を対象にした活動に取り組む。
- 7 魅力的な教職員として成長を続ける。
 - (1) 教員の研究環境を整え、FDを充実する。
 - (2) 事務職員の教育機能を評価し、SDを充実する。

Ⅲ 金城学院高等学校及び金城学院中学校 <事業計画>

愛知県下の 2013 年度私立中学校の入学試験では、経済状況の回復も思わしくなく、特に女子の受験者数の減少が見られた。金城学院中学校でも受験者数が僅かに減少した。

その中で選ばれ与えられた生徒を中学校入学から高等学校卒業まで中高 6 年一貫教育の下で本校らしい特色のある教育を今年も展開していこうと考えている。

建学の精神に則った **Dignity** の充実・深化を教育展開の軸に据えることは今まで通りだ

が、特に、今年ソフト面で高等学校が新学習指導要領に基づいた新カリキュラム年次進行スタートの年となり、第2外国語として中国語・韓国朝鮮語・フランス語のほかにドイツ語を新たに設けたり、英語で文化を理解する「Culture」そして社会と英語の合科「World Studies」などの新しい顔もカリキュラムに登場してくる。ハード面ではKMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）第1フェーズとして高校の世光館とみどり野館の跡地に不足している体育施設を備えた新しい校舎が建設される。ソフト・ハードの両面から変わりつつある2013年度、財務状況も視野に入れながら、変えるべきものは変え、守るべきものは堅持しつつ、神を畏れる知恵とキリストにある尊厳・品位を有し国際感覚を持ったピースメーカー、及び「自立・自律・連帯」できる女性の育成を目指し、次のように事業計画を進める。

1 キリスト教教育の推進

(1) 校内礼拝の充実

礼拝は、スクールモットーの「主を畏れること」の具体的な行為として、全教育活動の礎として重んじる。そのためにも、日々のすべての礼拝に備えをもち、臨む姿勢を確認し、その意義を明確に理解し、心からの賛美と祈りを捧げてゆく。

(2) キリスト教教育の構築

すべての教職員が金城学院のキリスト教教育の担い手としての自覚を持ち、各教科だけでなく行事も含めて、キリスト教教育のさらなる構築をしてゆく。キリスト教学校教育同盟などの研究会に積極的に参加し、教員自ら研鑽に努めてゆく。

(3) 教会出席やボランティア活動の励行

礼拝講師に近隣の牧師を迎えて、地域の教会との連携を深め、日頃の教会出席の励行に加え、特に伝道週間などの機会には教会出席を促す。また、奉仕の精神を大切に、さまざまな形でのボランティア活動を推進する。

2 教育力の向上

(1) 新学習指導要領の実施と改善

高校では、2013年度入学生より新学習指導要領の完全実施となり、従前の内容と変化が生じる為、各教科における研究を行う。また、今後予測される高等学校での「観点別学習状況の評価」の研究を推し進め、他校で行われている絶対評価（目標に準拠した評価）の導入についても研究・協議を行う。

(2) 中高一貫教育の推進

現在一部の教科・科目で行われている中学での先取り授業の振り返りを行うと同時に、今後これを推進する為の教科での話し合いを促進する。また、中・高一貫カリキュラムの構築の研究を進める。

(3) 中高大連携の推進

進行中の高大接続連携授業の見直し・改善を推し進める。また、各教科・科目における大学との連携（出前授業や授業協力）を積極的に推進する。教育実習を中心とする大学生の中高への授業参加のシステムを強化する。

(4) 授業評価の推進

マネジメントサイクル（PDCA）の一環として授業評価を行い、本校のシラバス構築を進める。

(5) 自己点検・自己評価の実施

個人のレベルで行っている自己点検・自己評価の取り組みを、教科・分掌で組織的に取り組むようにする。

3 生徒の受け入れ

(1) 第一志望受験生の増加

企画広報室を中心として、本校の教育理念をあらゆる機会を活用して受験者層に周知徹底させ、本校を第一志望とする受験生を増やす方策を検討していく。

(2) 私学協会との協力連携

受験者層の拡大に向けて私学協会と協力して検討する体制を維持していく。

(3) 効果的広報・募集活動の推進

広報・募集活動を点検し、効果的な活動となるよう企画実施する。

(4) 編入試験・転入試験の実施

保護者の海外赴任終了に伴い帰国する生徒の受け皿としての編入試験を行い、本校の学力レベルに相応した生徒を受け入れる。

また、愛知県に1校しかないプロテスタント・キリスト教主義女子学校として、キリスト教学校教育同盟加盟校及びクリスチャン子女の受け入れのため転入試験を行い、本校の学力レベルに相応した生徒を受け入れる。

4 施設・設備の充実・整備

KMP21に基づき、高等学校体育施設を中心とした新しい校舎を建築する。

5 国際理解教育の充実

(1) ホップ、ステップ、ジャンプのスリーステップで構成する国内及び海外語学研修旅行の恒常的な内容改善と充実。特にアメリカとイギリスでの研修に関しては、学校が運営する研修の特色を出すために事前学習プログラムの充実を図る。

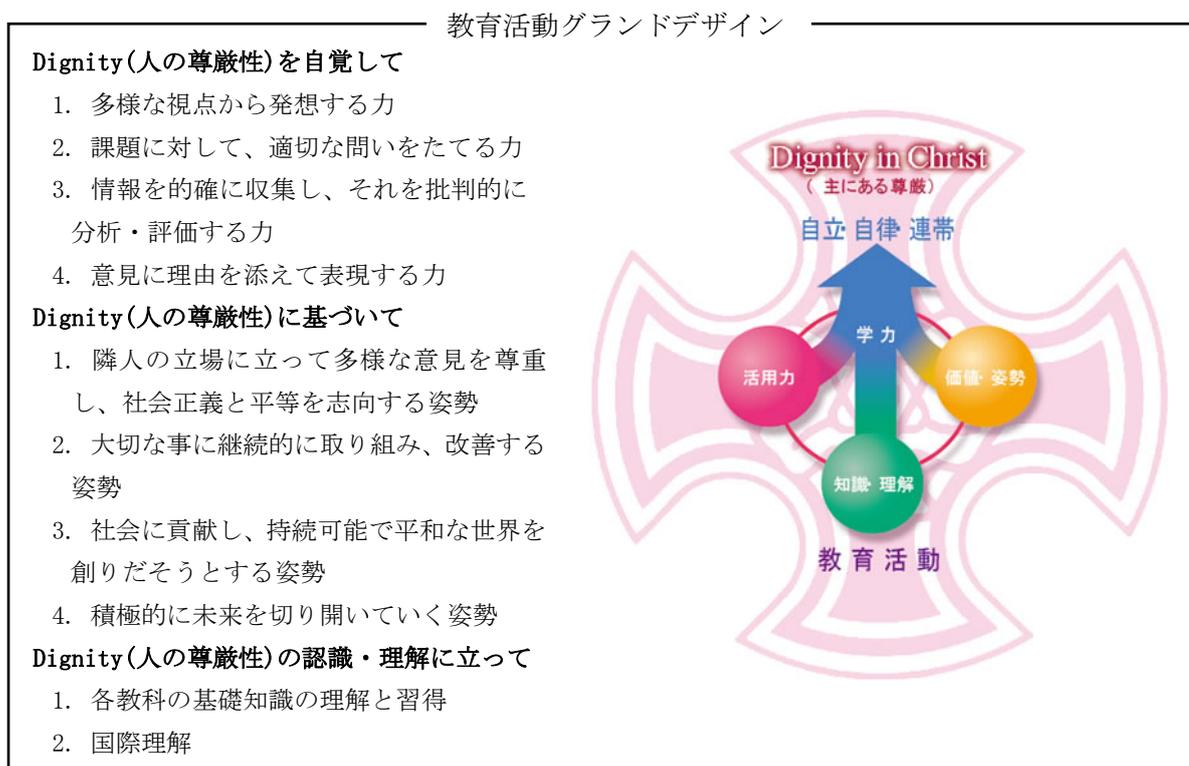
(2) 大学の留学生など、学内の人材を有効活用した国際教育プログラムの開発を行う。アメリカ及び国内の語学研修の充実と継続的な見直し、アメリカ語学研修旅行の内容充実を図るとともに、イングリッシュサマーキャンプの意義を確認し今後も積極的に

展開する。

6 学習・進路・生徒指導の充実

(1) 学習指導の充実

教育活動グランドデザインで示された学力を、各教科でつけさせる。



(2) 進路指導の充実

①中高大連携の推進

中高大教育協議会を通して情報を共有し、現在実施されている「大学単位先取り授業」をはじめとする連携プログラムを充実させるとともに、「大学入学前指導」などの新しい取り組みも合わせて、さらなる中高大の連携を推進していく。

②中学校における進路指導体制の充実

大学への興味を大いに喚起する方策を中高大教育協議会などに提言し、大学説明会等の内容に反映させる。

(3) 生徒指導の充実

生徒の自主的な活動を通して地域住民との絆を大切にし、生徒の校内外での礼儀作法を建学の精神に基づき教育していくことを目標とする。

7 生徒支援体制の充実

(1) 生徒の心身のケアに対する支援体制の向上

中高一貫校という環境を生かし、相談室担当教員、生徒支援担当教員、スクールカウンセラー（常勤・非常勤）、保健室の連携を強め、チームとしての生徒支援体制を整える。

8 健全経営の維持

(1) 中高の規模適正化の研究

2012年度から始まった8クラス体制への移行で生ずる財政状況の変化を把握し、他校との比較調査等を行い、人事を含めた適正化を検討する。

(2) 独立採算責任制の検討

中学校及び高等学校の帰属収支の改善策を検討する。

9 組織力の向上

(1) 人材育成

役職者・中堅・若手それぞれにふさわしい修養会、研修会等を企画し、現状の問題点を共有する。

(2) 事務局機能の向上

中学校及び高等学校の各事務室の業務を標準化するとともに、教員との連携を通じて生徒支援機能を向上させる。

(3) デジタルデータの管理

デジタルデータの一元管理を推進する。

《資料》金城学院高等学校及び金城学院中学校の将来構想概要

(2009年度～2014年度)

1 キリスト教主義による教育

(1) 校内礼拝の励行

現行の維持と常の見直し、近隣教会への出席の勧め

(2) キリスト教教育の再構築

関係団体・組織との連携・維持、中高一貫の更なる検討・実施

(3) ボランティア活動指導・推進

一層の指導・推進

2 女子教育の推進

(1) 教育力の向上

中高大連携の推進：中高大教育協議会への協力、中高連携の一層の推進“Dignity”を柱にして（自立・自律・連帯）、中高の学科選択性の促進、クラスサイズダウンの検討

(2) 施設設備の充実・整備

環境に配慮したキャンパス整備、校内美化の推進、校内生活・教育の充実のための施設の整備、安全・安心の確保

3 国際交流の充実

(1) 海外提携校との関係強化

語学研修の常の見直しと充実（アメリカ、国内）、オーストラリア提携校の関係継続、韓国姉妹校との関係継続

(2) 外国人による授業実施

中高における英語教育のあり方構築、外国人英語講師の採用

4 健全財政の維持

(1) 中高規模の最適化の研究

運営の適正規模の研究、組織運営の合理化と責任体制の明確化、人事・労務管理の適正化と人材育成、事務管理の効率化

(2) 独立採算責任制の実施

予算精度向上のための事業計画立案、決済（決裁）制度のあり方構築、予算の弾力的運用のあり方検討

(3) 入学生徒確保と退学防止

企画広報の体制整備、募集業務の徹底、外部資金導入方途の検討

IV 金城学院幼稚園 <事業計画>

昨年度は幼稚園設立 40 周年という節目に際し、創設の理念を再確認するとともに時代に即した新しい取り組みの実現に向け、学院との検討を深めてきた。

少子化、母親の就労希望増は今後も幼児教育界を大きく変動させる事が予想される。新たな幼保連携型認定こども園制度への改正がなされ、株式会社の参入や既存の幼稚園・保育園からの移行義務付けは無くなったものの、長時間保育や保育園への入園を希望する親は減ることはない予想される。そのことから当園の教育理念に理解を示し、入園を希望する親子が入園しやすい環境を整える取り組みを行っていききたい。

キリスト教保育連盟の 2013 年度年度主題聖句「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」（コリントの信徒への手紙一第 13 章 13 節）及び年度主題「あふれる愛」のもと、2013 年度は次のことを教育目標にする。

- (1) 保護者、保育者、友だちの愛情を受け、安心してその子らしく成長できるように援助する。
- (2) 愛され育つ中で、神と人とを愛し尊ぶ心を養う。
- (3) 自分の持てる力を発揮し、さまざまなことに挑んでいけるように援助する。
- (4) 互いの違いを認め合い思いやり合い、生活できるように導く。

1 保育活動の充実

教育カリキュラムを教諭間で十分検討し、今まで通り通常保育を充実させていく。

それに加え、2013 年度より通常保育後の教育活動として、40 名の園児受け入れを目標に預かり保育を開始し、質の高い保育を提供できるよう取り組むとともに、就労希望

の母親にも入園の門戸を広げ、子育て支援を充実させる。

2 保護者との連携

(1) 保護者の保育参加

保護者が保育に参加する機会を設け、開かれた幼稚園としての機能を果たす。

(2) 園長及び教諭との懇談と子育て支援

個人懇談会や降園時の担任との懇談、必要に応じて園長との個別懇談の機会を設けるなど、子育て支援体制を整える。

3 新入園児の受け入れ

(1) 入園願書配付の見直し

昨年度に続き、幼稚園理解としての見学・体験会を充実させるとともに、入園願書を希望する全員に配付するなど、出願しやすい環境を整える。

(2) 幼稚園広報の充実

募集力強化につながるよう見学会や説明会、講演会などの内容や配付物などを見直すとともに、幼稚園ホームページを充実させる。

4 0～3歳児の親子教室開催

「金城学院幼稚園の将来構想概要」にあるように、0～3歳の未就園児親子教室を、毎月一回程度5～6回のプログラムで行い、母親の相談や交流の機会とし、子育てを支援するとともに、幼稚園理解を深めてもらい入園に繋げていきたい。

5 大学、関係団体及び地域との連携

引続き大学や、幼稚園連盟及び協会、社団法人キリスト教保育連盟などの関係団体との連携を強化するとともに、次の4点の活動を推進することで、更に大学との連携、地域との交流を促進する。

(1) 地域の中学生及び高校生の職場体験学習の受け入れ

(2) 幼稚園施設の貸し出し

(3) 親子教室の開催や未就園児保育の拡充

(4) 現代子ども学科との連携を強化し、教育実習はもとより体験授業や自主実習生の受け入れなど養成校の幼稚園としての協力を促進していく。

6 園庭整備と自然の有効利用

自然の中にある恵まれた教育環境と、魅力のある園庭を十分に活かすことが出来るように、今後も手入れや整備を行っていきたい。

《資料》金城学院幼稚園の将来構想概要（2009年度～2014年度）

1 預かり保育の実施

園児と小学生を対象に園の保育方針に沿った内容で「預かり保育＝教育課程に関わる教育的時間の終了後に行う教育的活動」として、造形教室・ハンドベルクワイアの二つの活動を行ない、その他についても内容を吟味・検討しつつ取り組んでいく。

2 施設及び園庭の貸し出し

現在、保育後30分間の園庭開放を行っているが、今後、地域を対象に必要なに応じて実施していく。

3 0、1、2、3歳児への親子教室開催

子育て支援活動として、兄弟関係の希望者を対象に行っていく。

4 満3歳児保育（兄弟関係の希望者対象）

現在は入園希望者を対象にして「見学」の形で行っており、入園決定者にはその後3回程度、親子の保育体験と保育方針についての説明会を行っているが、今後、対象者を拡げて「子育て支援」としての実施を考えていく。

5 保育学会及び外部団体に対する貢献を通し、広報活動の展開

幼稚園の使命を自覚して、広報活動を通して連携・連帯を求めていく。

6 環境整備の充実

実のなる木々が生え小鳥や昆虫などの生息しやすい環境が整っている園庭及び周辺の雑木林を、ロープ遊具や築山、子どもたちの遊び場づくりなど、安全で創造力を豊かに育む場として整備する。

V 法人部門 <事業計画>

金城学院大学、金城学院高等学校、金城学院中学校及び金城学院幼稚園が行う様々な事業を、円滑かつ健全に運営するために法人部門が担う役割は極めて重要である。変化が激しい社会環境や多様化するニーズに応えることができる学校法人であるために、絶え間ない組織・経営改革を推進することを、法人部門は求められているからである。

このような認識と使命の下、学校法人金城学院の中期計画及び事業方針に基づく法人部門の2013年度事業計画としては、次の4点を掲げる。

1 財務基盤の強化

財務状態の安定のため、各校における学生・生徒募集力の強化、学生・生徒満足度の向上を図り退学率を一層低く抑え、主たる収入としての学生生徒等納付金を安定的に確保する。また外部資金として、補助金、事業収入及び資産運用収入等の増加を目指す。特に、120周年記念募金を引き継ぐ一般寄付金施策を立案実施するとともに、維持協力会の会員増加を目指す。

2 人材の育成

安定した経営基盤を築くために、明確な事業戦略とともに人事戦略を立案し、教職員

という人的な経営資源を十分に活用できるよう、長期的視野をもって役職者育成を見据えた人材育成に取り組む。

3 各学校・園の規模適正化の研究

大学、高校、中学及び幼稚園の収容定員規模に関する検討をすすめ、適正な人員と人事配置を達成できるよう検討をすすめる。

4 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進

本體工事を滞りなく推進する。そのため、学院、設計・管理者である株式会社三菱地所設計、施工業者である大成建設株式会社の3者による総合工事調整会議を定例開催する。また、第2フェーズ着手に向けた準備を開始する。

VI 予算概要

1 予算編成方針

2013年度予算編成は、6カ年にわたる中期計画（2009年～2014年）の5年目となることから、計画完遂に向けて配慮したものとする。

具体的には、以下の編成方針に基づき、必要かつ妥当と判断された計画の採択を原則とする。

（1）収入関連

学生生徒納付金収入は、各校とも対入学者定員100%、退学・休学想定率2%とする。補助金収入は、前年度実績の90%もしくは最低補償額を見込む。その他の収入等は、不確定な要素があるので、例年通り織り込まない。

（2）支出関連

2009年度からの精力的なコストダウンへの取り組みにより、現状のコスト水準が健全レベルに達したと判断し、2013年度の継続経費は、「2011年度規模に対するゼロシーリング」を目指す。また、2012年度に引き続き、防災対策強化、環境配慮などの政策的予算への積極的な再配分を目指す。設備更新関連は、緊急性、有効性などを十分検討し予算化する。

（3）帰属収支及び繰越支払資金

KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）に関連する予算を除外算定し、2013年度において帰属収支差額比率10%の確保を目指す。2013年度繰越支払資金10億円以上を目指す。

2 主な事業別予算

予算編成方針に基づき、2013年度の主な事業に対する予算を次のとおり計画した。

(単位：千円)

分類	主な事業内容	予算額
KMP21 関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築費 ・ 設計・監理費 ・ 備品購入費 など 	7,237,245
修繕事業 (大学)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本部棟改修工事 ・ ランドルフ記念講堂改修工事 ・ キャリア支援センター施設改修工事 ・ 留学生会館各所更新工事 など 	172,788
修繕事業 (高等学校)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放送設備改修 	4,715
修繕事業 (中学校)	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブハウス改修工事 ・ キュービクル内トランス更新工事 ・ 信愛館消火ポンプ更新工事 	12,831
大学校地整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹伐採及び隣地越境樹木撤去工事 	2,940
戦略広報事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞広告掲載 ・ 鉄道額面ポスター掲出 など 	72,276
I T 関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータ教室更新 ・ 学生ポータルサイト構築 ・ 図書館 AV コーナー設備更新 など 	97,113
防災対策 強化事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学内各所エレベーター安全装置設置工事 ・ 大規模空間施設の天井耐震調査 ・ 危機管理オリエンテーションの実施 	11,949
研究設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動細胞解析装置 	25,515
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急特別就職支援策 など 	59,678
合計		7,697,050

